

# 社会貢献活動レポート2008

SOCIAL CONTRIBUTION ACTIVITIES REPORT 2008

Activities Centered on Children, the Environment, and Society  
Sending Out an Environmental Message  
Activities through the Cosmo Oil Eco Card Fund  
Art and cultural activities support  
Activity of oil manufacture place



cosmo oil co.,ltd.



cosmo oil co.,ltd.



cosmo oil co.,ltd.



cosmo oil co.,ltd.



cosmo oil co.,ltd.



cosmo oil co.,ltd.



cosmo oil co.,ltd.



cosmo oil co.,ltd.



cosmo oil co.,ltd.



cosmo oil co.,ltd.



社会貢献活動レポート  
2008  
2008  
2008  
2008

明日のために、今日はじめよう。  
平和で健全な社会をつくるために、  
コスモ石油は行動しています。

Start today for a better tomorrow.  
Cosmo Oil is striving to build a peaceful and  
healthy society.

企業は、社会の一員です。ですから、企業が発展していくためには、社会から存続を認められることはもちろん、社会が平和で健全であること、地球環境が保全されていることが、その前提条件になります。コスモ石油は、地球と人間と社会の共生を図り、持続可能な発展をめざすことを企業理念に定め、社員や幅広く社外からの参加を促し、社会貢献活動に取り組んでいます。コスモ石油は1993年に、交通遺児の小学生を対象にした自然体験プログラム「コスモわくわく探検隊(7ページ)」を主催するとともに、社員ボランティアの育成に着手。また2002年には、お客様とともに地球温暖化防止や次世代の環境教育支援に取り組むプロジェクト「コスモ石油エコカード基金(17ページ)」による活動を開始しました。今後も、社員の社会貢献マインドの醸成に努めるとともに、お客様やNPO、支援先とのネットワークを拡げることで、活動の質の向上やフィールドの拡大を図っていきます。

A company is a part of society. In order for the company to grow and develop in society, one natural assumption is that its existence should be recognized by society yet other assumptions are that society is peaceful and healthy and that the global environment is preserved properly. Cosmo Oil's corporate vision is that it will strive to ensure symbiosis among the planet, humanity and society and to aim at sustainable growth. And it is engaged in social contribution activities by encouraging people both inside and outside the company to join them. In 1993, Cosmo Oil began to host the "Cosmo Waku Waku Camp (Please refer to Page 7 for detailed information)," a program providing an opportunity for elementary school children orphaned through traffic accidents to experience nature and started developing volunteers from among its employees to help with the program. In 2002, the company launched the "Cosmo Oil Eco Card Fund" project (Please refer to Page 17 for detailed information) including a customer-participating global warming prevention program and an environmental support education program for children. The company will continue striving to grow a voluntary spirit of social contribution in the minds of employees, while broadening its network of customers, NPOs and other supporters to improve the quality of activities and expand the scope of their fields.

子ども・環境・  
社会をテーマ  
にした活動

1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
1993 - コスモわくわく探検隊															P07
2002 - 子どものための自然アートワークショップ															P08
2002 - 小学生向け「地球環境ブック」の配布															P10
2003 - クリスマスカードプロジェクト															P09
2003 - Webコスモ子ども地球塾「エコネッツ」															P10
2004 - コスモ絵かきず															P09
2005 - ユース・フィランソロビー															P10
2006 - パパとキッズのアートプログラム															P11-12
2007 - ハッピードールプロジェクト															P13

環境  
メッセージの  
発信

1995 - コスモ アースコンシャス アクト アースデーコンサート															P16
2001 - コスモ アースコンシャス アクト ラジオ番組「ずっと地球で暮らそう。」															P16
2001 - コスモ アースコンシャス アクト クリーン・キャンペーン															P15
2002 - コスモ アースコンシャス アクト 野口 健 講演会															P16
2004 - 環境文化誌「TERRE」															P16
2004 - インターネットムービー&DVD「野口 健 小笠原自然学校」															P16

コスモ石油  
エコカード基金  
による活動

2001 - 熱帯雨林保全プロジェクト															P19
2002 - 南太平洋諸国支援プロジェクト															P19
2002 - シルクロード緑化プロジェクト															P19
2002 - 循環型農業支援プロジェクト															P19
2002 - 学校の環境教育支援プロジェクト															P19
2002 - さとやま学校(旧「棚田保全」)															P19
2003 - 野口 健 環境学校(旧「環境学校支援プロジェクト」)															P19
2005 - 秦嶺山脈森林・生態系回復プロジェクト															P19
2005 - 参加型 総合学習・環境教育サイト EEkids															P19
2006 - 種まき塾(旧「植林のための苗木供給基地プロジェクト」)															P18

Contents

P03	社長メッセージ
P04	コスモ石油グループ経営理念
P05-14	子ども・環境・社会をテーマにした活動
P15-16	環境メッセージの発信
P17-19	コスモ石油エコカード基金による活動
P20	芸術・文化活動支援 / その他の活動
P21	製油所の活動
P22	外部からの評価

2007年度のTOPICS

4月1日 | ボランティア休暇制度を導入。2007年度は18件(2007年12月末)の取得がありました。(5ページ)

9月22日 | 「平成19年度ボランティア功労者厚生労働大臣表彰」を受賞。「過去10年以上にわたり率先して活動または支援を行い、引き続き現在も活動を行っている者である、その活動が他の模範となるもの」として評価されました。

コスモ石油は、私が社長に就任した2004年から「CSR経営」を重要な課題として取り組んできました。私たちは、社会から信頼される誠実な企業経営を実践する一方で、社会に利益を還元することで「社会から期待される新たな企業価値」を創造していこうとしています。そのためには、「当たり前前は当たり前にする」、「やっつけはいいことにはやらない」を、社員一人ひとりが自覚する必要があります。なぜなら、CSR経営を推進するのは会社ですが、それを実践するのは一人ひとりの社員だからです。

私はこれまで、富士山の清掃登山や「コスモわくわく探検隊」に参加しました。仕事を離れ社会貢献活動をする中で、会社がどう見られているかを知り、さまざまなステークホルダーの存在を再認識する機会になりました。ステークホルダーの顔が見えることで、その信頼を裏切ることなく誠実に対峙していく決意を持つことができます。これは、社員としてCSRを実践

する一歩となります。

コスモ石油では、1993年から継続している「コスモわくわく探検隊」をはじめ、社員ボランティアが参加する社会貢献活動を展開しています。こういった活動への参加を通じて、社員一人ひとりの社会貢献マインドを醸成することで、本当のCSR経営が実現できます。コスモ石油グループの社員は全国で3,402人(2008年1月1日現在)、そしてコスモ系列のサービスステーションは4,170カ所(2008年1月末現在)あります。私たちは、企業として責任を果たし、広く社会に貢献するために、一人ひとりが社会貢献マインドを持った企業でありたいと考えています。

コスモ石油は、2007年度から「ボランティア休暇制度」を導入し、社内への認知拡大に努めています。同時に、社員が参加しやすい社会貢献活動を全国各地で展開することで、全事業所の社員一人ひとりが積極的に、持続可能な社会づくりに貢献していきます。



### 社員一人ひとりが社会貢献マインドを持った企業をめざします。

We aim at becoming a company in which each and every employee has a spirit of social contribution.

コスモ石油株式会社 代表取締役社長  
**木村 彌一**  
Yaichi Kimura  
President Cosmo Oil Co., Ltd.

We at Cosmo Oil have worked on an important challenge of “corporate social responsibility (CSR) management” since 2004, when I was named president. We are managing the company in a sincere manner, for which we hope to earn the trust of society, while trying to create “new corporate values to win expectations from society” by redeeming profits to society. To achieve this, each and every employee needs to become aware that they “do their duty as it should be done” and that they “never do otherwise.” Though the company promotes CSR management, it is individual employees who put it into practice. I have also personally participated in the “Mt. Fuji cleanup” and the “Cosmo Waku Waku Camp” programs. Being away from work and participating in the social contribution activities provided an opportunity for me to see how the company is viewed by people and to re-recognize the variety of stakeholders that the company has. Seeing the stakeholders in person makes me renew my commitment to doing everything in good faith by living up to the trust they place in us. Joining a social contribution program provides the first step an employee can take to practice CSR on his or her way.

Cosmo Oil has been conducting a variety of social contribution activities that encourage employees to attend as volunteers, including the “Cosmo Waku Waku Camp” program we have run since 1993. Growing a good spirit of social contribution among employees through their participations in such activities allow the company to realize true CSR management. The Cosmo Oil Group employs a total of 3,402 people across Japan (as of January 1, 2008) and its direct-run and affiliated service stations operational nationwide a total of 4,170 (as of January 31, 2008). We are committed to assuming responsibility as a good corporate citizen and to being a company in which each employee has a good spirit of social contribution in order to make contributions to society in various ways. Cosmo Oil introduced the “Volunteer Sabbatical Leave” program in 2007 and now communicates it in-house for all employees to know about it. At the same time, the company will execute a variety of social contribution programs, which employees find easier to attend, in all parts of the country so that all the employees in all the operating locations can make active contributions toward building a sustainable society.

## コスモ石油グループ 経営理念

Cosmo Oil Group Management Vision

わたしたちは、地球と人間と社会の調和と共生を図り、無限に広がる未来に向けての持続的発展をめざします。

In striving for harmony and symbiosis between our planet, humanity and society, we aim for sustainable growth towards a future of limitless possibilities.



### 社会貢献活動のコンセプト

Concept of social contribution activity

#### 未来の社会をつくる子どもたちの啓発

To educate children who will be part of the future society.

#### 人間社会が存続するための基盤である地球環境の保全

To preserve the global environment - the foundations of a sustainable society.

#### 平和で心豊かな文化的社会の構築

To form a peaceful, considerate and cultural society.

### 社会貢献活動の基本方針 (1992年制定)

Basic policy of social contribution activity

#### コスモ石油としてオリジナリティのある活動を行う

Activities unique to Cosmo Oil.

#### 社員が参加して活動する

Full personnel participation.

#### 経営状況に左右されず長期継続する

Lasting presence regardless of our business status.



# 子ども・環境・社会をテーマにした活動

Activities Centered on Children, the Environment and Society

健全な次世代育成と社員の社会貢献マインドを醸成するプログラムです。NPOや支援先とのネットワークを駆使して、活動の環を広げています。

A program designed to nurture children with healthy bodies and healthy minds who will be a part of the future society and to grow a spirit of social contribution among employees. Cosmo Oil utilizes its network of NPOs and other supporters to broaden the circle of activities.



## 会社、社員、外部ネットワークによる活動の広がり

活動を主催し、プログラムづくりのノウハウを蓄積。

コスモ石油が主催する社会貢献プログラム「コスモわくわく探検隊」は、1993年にスタートしました。コスモ石油が主体となって、NPOの協力のもとにプログラムを企画・運営することで、子ども向けプログラムづくりのノウハウを蓄積。2002年にスタートした「子どものための自然アートワークショップ」や、2006年にスタートした「パパとキッズのアートプログラム」などへと展開していきました。

社員参加を促し、社員ボランティアのスキルを向上。

社員が活動に参加することで、ボランティア活動に対する社員のスキルが向上します。「コスモわくわく探検隊」に参加した社員ボランティアは、現在200名以上。「子どものための自然アートワークショップ」をはじめ、さまざまな活動をサポートしているほか、養護施設の子どもたちを元気づけるためのプロジェクト「コスモ絵かきっず」は、社員ボランティアが中心になって運営されています。

活動を継続的に実施し、タイムリーな活動へと展開。

継続的に活動を行うことで、社内外での理解や認知が高まり、社会貢献マインドが醸成されます。さらに、継続的な活動を通じて得たノウハウや人材、外部とのネットワークを基盤に、社会問題にタイムリーに対応したプログラムを展開することが可能になります。地球環境をテーマにした「子どものための自然アートワークショップ」から、養護施設の子どもたちを対象とした「コスモ絵かきっず」、父親の育児参加支援を目的とする「パパとキッズのアートプログラム」、子どもたちの社会貢献マインドを醸成する「ユース・フィランソロピー」、さらに2007年度は「ハッピードール・プロジェクト」へと広がっています。

### 子ども・環境・社会をテーマにした活動の広がり

活動を通じた社員ボランティアの育成により、活動のフィールドを拡大するとともに、社内外での社会貢献マインドの醸成を図っています。



### ボランティア休暇制度の導入



人事部 労務・人権グループ長 長屋秀美

CSR経営を推進するというトップの方針を受け、ボランティア休暇制度を導入しました。コスモ石油は、2007年4月にボランティア休暇制度をスタートさせました。この制度には、会社が推進するCSRの一環として、社会貢献活動に多くの社員が関心を持ち、自ら参加しているという意識を持ってもらいたいというメッセージを込めています。2007年12月末までに18件の取得がありましたが、現状の取得件数が充分だとは思っていません。ワークライフバランス研修などを通じた周知徹底を図り、実際に社員が利用し、会社の活性化につながる制度にしていきます。



1993~  
cosmo oil co.,ltd.

## コスモ子ども地球塾 コスモわくわく探検隊

Cosmo Children's Earth School  
Cosmo Waku Waku Camp

A 仲間と協力して、ヤマメを捕まえました  
B みんなで仲良く水遊び  
C 竹の食器づくりの様子  
D 3日間のエピソードを紙芝居にして、発表しました

交通遺児を対象にした、2泊3日の自然体験プログラムです。子どもたちの安全健康管理のために、NPOと社員ボランティアは、本番と同じスケジュールで研修を行います。

A two-night, three-day camping program providing an opportunity for children orphaned through traffic accidents to experience mother nature. To ensure the safety and health of children, the NPO and voluntary employee participants attend a training session that is a dress rehearsal with the same program as the day of the camp.

2007年度の第15回「コスモわくわく探検隊」は、山梨県上野原市の山梨県立ゆずりはら青少年自然の里を舞台に開催。34名の児童が魚や水生昆虫の観察や、ヤマメのつかみ捕り、竹の食器づくりなどを体験しました。全国から集まったコスモ石油の社員ボランティア14名は、3ヵ月以上の準備期間と2泊3日の研修を経て、当日のプログラム運営と子どもたちの安全・健康管理に努めました。

● 実施概要 ●

プロジェクトメンバー：コスモ石油、アースコンシャス  
プロジェクト開始時期：2006年11月  
開催場所：山梨県立ゆずりはら青少年自然の里  
開催日：2007年8月16～18日(2泊3日)  
参加者：交通遺児の小学生34名、コスモ石油の社員ボランティア14名、外部サポートスタッフ



本番と同様のスケジュールで事前現地研修を行いました

事前現地研修後に本社に集まり2回のフォロー研修を行い、安全管理や子どもとの接し方について学びました



参加児童の保護者の声

- たくさんの“初めて”を経験でき、毎年楽しい夏休みを過ごすことができました。ありがとうございました。
- とても貴重な体験をありがとうございます。毎回、子どもたちは心も体もすごく成長して帰ってくる気がしました。
- 一人ひとりに対し、話しかけてくれたり楽しかったあと笑顔で言っていました。その顔を見て幸せでした。本当にありがとうございました。



参加児童の声

- すごくおだやかな気持ちになった。
- なにをつくらうか考えたり、自然のものをつかって作ったことが楽しかった!
- 木は生活に必要なものを色々生み出しましたが、やはり残すことは大切だと思いました。
- 自然でこんなにきれいな作品ができて、楽しかったし、うれしかったです。
- 落ち葉すべてが茶色ではないことに気づきました。

2002~  
cosmo oil co.,ltd.

## コスモ子ども地球塾 子どものための 自然アートワークショップ

Cosmo Children's Earth School  
Natural art workshop for children

自然への気づきをうながし、子どもたちが自ら行動するきっかけとなるよう、四季の自然の中で「見る・感じる・学習する」アートワークショップを開催しています。

Cosmo Oil hosts an art workshop designed for children to “observe, feel and learn” different aspects manifested by nature in four seasons, guiding them toward self-motivation to act to protect nature.

2007年度の第6回「子どものための自然アートワークショップ」は、エコロジー・アーティストとして世界的に高い評価を受けているドイツのニルス・ウドさんをお迎えし、「センス・オブ・ネイチャー」をテーマに開催しました。参加した24名の小学生たちは、公園を散策しながら作品の材料を集め、ウドさんのアドバイスを受けながら、自由な雰囲気の中で作品づくりを楽しみました。作品の写真撮影を行った後は、集めた材料を森に戻しました。

● 実施概要 ●

プロジェクトメンバー：コスモ石油、ワンダーアートプロダクション  
プロジェクト開始時期：2007年9月  
開催場所：国立科学博物館付属自然教育園  
開催日：2007年12月8日  
アーティスト：ニルス・ウド(ドイツ、エコロジー・アーティスト)  
参加者：会場近郊の小学生24名、コスモ石油の社員ボランティア4名、社外ボランティアスタッフ



子どもたちの独創性あふれる作品



A みんなで意見を出し合い、作品のイメージをふくらませました  
B 作品づくりのヒントを説明するニルスさん  
C グループごとの作品紹介。ニルスさんが一つひとつに作品の感想を語ってくれました



素直な気持ちでひとつの作品に入り込んでいた子どもたちの姿はとても印象的でした。  
東京にこんな自然の豊かな森が残っていること、私は大変感激しました。この森がこれからも私たちの大切な森であり続けるように、みなさんも自然の美しさ、素晴らしさを感じながら生活してほしいと思います。  
ニルス・ウド





## クリスマスカード・プロジェクト

Christmas Card Project

コスモ石油の社員とその家族や友人が、入院中の子どもたちにメッセージを送って励ますプロジェクト。  
コスモ石油主催のプログラムに参加した子どもたちもメッセージを送っています。

A program providing an opportunity for Cosmo Oil employees and their families and friends to send messages of encouragement to children hospitalized during Christmas. Children participating in the Cosmo Oil-hosted program also send their messages.

「パパとキッズのアートプログラム」に参加した児童の作品をモチーフに制作したクリスマスカードに、参加した子どもたちや、コスモ石油の社員や家族、友人が、励ましのメッセージを添えて病院にお送りしています。第5回となった今年は、全国の15の病院に、合計1,545枚のカードをお届けしました。回を重ねるたびにプロジェクトへの参加者が増え、また各病院の医療スタッフの方々からも、毎年楽しみにされているとの声が寄せられるようになりました。



各病院へ直接、お届けしました



## コスモ絵かきっず

Cosmo EkaKids

楽しく遊びながら、元気になってもらいたい！  
養護施設の児童を励ますコミュニケーション・プログラムです。社員ボランティアが中心になって推進しています。

Have a great time and get well soon!  
A communication program designed to encourage physically-challenged children attending special schools. Employee volunteers take the lead to promote the program.

家庭内暴力などにより、保護者がありながら児童養護施設で暮らす子どもたちが増えており、東京都だけでも3,000名以上に上っています。コスモ石油は、こうした子どもたちが、元気と自信を取り戻すきっかけの一助とすべく、セラピー的な要素を盛り込んだ「コスモ絵かきっず」を継続的に開催しています。2007年度は、2007年9月9日と、2008年1月26日に実施。2006年度に引き続き、アーティストMAYA MAXXさんをナビゲーターとしてお迎えしました。9月の「外壁リノベーション大作戦」では、施設の子どもたちと社員ボランティアが一体になって作品をつくりあげました。



子どもたちは思い思いに花の絵を描きました

### ● 実施概要 ●

- プロジェクトメンバー：コスモ石油、ワンダーアートプロダクション
- プロジェクト開始時期：随時
- 開催場所：東京都内の児童養護施設
- 開催日：2007年9月9日「外壁リノベーション大作戦 with MAYA MAXX (社員ボランティア: 11名)」、2008年1月26日「ギャラリー・ツアー with MAYA MAXX (社員ボランティア: 8名)」
- ナビゲーター：MAYA MAXX
- 参加者：養護施設の児童、コスモ石油のボランティア延べ19名



## ユース・フィランソロピー

Youth Philanthropy

子どもたちが、社会を良くするために、自分でできることを学ぶプログラムです。小学生向けの先駆的プログラムの実施や、米国の好事例の紹介などを通じて、日本でのユース・フィランソロピー普及に取り組んでいます。

A program providing an opportunity for children to learn what they can do to improve society. Implementation of the pioneering program for elementary school children and introduction of good examples in the U.S. to promote the wide acceptance of youth philanthropy in Japan.



米国などで活発に行われている本来のユース・フィランソロピーでは、子どもたちがリーダーシップと創造性を発揮して、自らの責任のもとにプロジェクトを実行し、いかにコミュニティの発展に役立てるかが重要な要素となっており、子どもたち自身が必要な助成金申請を行う例も多く見られます。コスモ石油は2005年、日本初のユース・フィランソロピー・プログラムとして、小学生がNPOを体験・取材し、助け合いの必要性について学ぶプログラムを実施。また2006年度以降は、米国での先進的好事例の収集や情報発信などを行ってきました。今後も、ユース・フィランソロピーの日本での定着に向けて取り組んでいきます。



## 小学生向け環境副読本「地球環境ブック」

Earth Environment Book

地球環境を守るために活動している人々のメッセージを伝える本です。

A book of messages of people engaged in activities for protecting the environment of the Earth.

小学生を対象にした「地球環境ブック」を2002年に発行。希望者に無料で配布しています。(教育関係者に限定、送料はご負担いただいています)



お申し込みアドレス  
www.cosmo-oil.co.jp/phil/earthbook/index.html



## Web コスモ子ども地球塾 エコネッツ

“Cosmo Children's Earth School econets” website

地球環境を守るためにはどうすればいいか、一緒に考える環境教育Webサイトです。

An environmental education website where children work together to consider how to protect the Earth's environment.

環境保全に取り組む人の活動とメッセージを中心に、石油と地球温暖化など環境教育に役立つ情報や、実際に参加できる活動などを紹介しています。

www2.cosmo-oil.co.jp/econets/



心に余裕があれば、誰かを支えることができる。そして、誰かに支えてもらうこともできるのです。

志村景子

「自分たちの良いところ、悪いところにも気づかれます。ボランティア活動を体験することで、ボランティアをするのが自然なことに感じられるようになります。自分らに余裕があれば協力してあげられるし、同様に自分に余裕があれば、自然に助けを求めらうこ

とができます。私自身、仕事でも普段の生活でも、変に肩肘張らずに助けを求めらうことができるようになりました。コスモ石油には、ボランティア活動が溶け込んでいると感じます。職場で自然に、ボランティア活動の話が出ますし、また上司や同僚にも体験者が多

いので、「わくわく探検隊に行くの？頑張るぞ」というように言われたりもします。せうかくこまで浸透しているのですから、上層部の方にも積極的に参加できるようにすれば、一般の社員とのコミュニケーションの機会も増え、会社ももっと良くなっていくと思います。



プロジェクトメンバーの声

ワークショップを考える、良いきっかけになりました。

北海道立近代美術館主任学芸員 久米淳之 様

今回、初めて企業とのワークショップを開催したのですが、開かれた美術館にいくために、こちらにも積極的に参加するワークショップを考える良いきっかけになりました。ワークショップの結果が見えるものではありませんから、参加



した子どもにも、どうい影響を与えたのかを調査するのは不可能です。気になるところが、あります。パパとキッズのアートプログラムは、間違った家庭内に変化をもたらす鍵になったと思います。

それぞれが持っているものを、尊重し合いながらやっていたのがいちばん。

北海道立近代美術館学芸員 浅川真紀 様

パパとキッズのアートプログラムは、参加者とコスモ石油の社員ボランティア、アーティスト、NPOそして美術館のスタッフが時間を共有して何かをつくりあげるとして、血の通ったプロジェクトになったと思います。ワークシ



ワークショップは、出会わない人と出会う、触れないものに触れて、気づかないことに気づいたりする、発見や開放の場です。美術館とコスモ石油、両方の良いところをリスペクトしたいという、新しい展開や発見につながると思います。



A こんなに自由に描いていいんだ! MAYAさんのデモ制作に見入る参加者  
B MAYAさんは、それぞれの親子に声をかけます  
C あたたかい空気に包まれる会場

全国で数々のワークショップを手がけているなか、このアートプログラムはどの会場もとても雰囲気良く、ほのぼのと楽しめるものでした。ふだんから絵を描くのが好きな親子が集まったのだと思いましたが、子どもたちは私が思わず心配するくらい長い時間集中して描いていたし、お父さんもリラックスしているよ。うでパパぶりをつい発揮する面があったり、子どもを責めていたように、休日の父子独特のあたたかい空気で、会場全体が包まれました。

MAYA MAXX



楽しいエピソードにMAYAさんも笑顔



# パパとキッズのアートプログラム

## ～世界でたった1つの絵本～ Art Program for Daddies and Kids "Unique Picture Book"



父子のコミュニケーションから生まれた数々の絵を、一冊の絵本にするプロジェクトです。アーティストのMAYA MAXXさんをナビゲーターに、各地の美術館などのスタッフと社員ボランティアが、父子のコミュニケーションをサポートしました。

A program designed to develop an art book into which a number of pictures drawn through communication between fathers and their children are compiled. As the program is held at museums in various parts of Japan and is navigated by Maya Maxx, an artist, the museum staff and Cosmo Oil employee volunteers provide support for communication between fathers and children.

父子がコミュニケーションを楽しみながら参加できるワークショップ「パパとキッズのアートプログラム」を、コスモ石油の支店所在地で全国的に展開しました。アーティストのMAYA MAXXさんをナビゲーターに、開催場所を提供いただく美術館・博物館のスタッフと、コスモ石油の社員ボランティアが、プログラムを運営しました。「パパも昔は子どもだった」をテーマに、お父さんが子ども時代のエピソードを語り、子どもがそれを絵にしていきます。参加費用として500円をいただき、当社が同額をマッチングし、NPOファミリーハウスに寄付しました。このプログラムは、少子化の原因の1つと言われる「父親の育児不参加」を解消するきっかけとなるような、父子のコミュニケーションを深めるプログラムづくりを模索していたことと、子育て世代の男性社員から「休日はボランティア活動に参加しづらい」という声があったことから、その両方を満たす活動として生まれました。2006年3月の東京を皮切りに、全国9ヶ所の美術館・博物館で実施しましたが、2007年8月26日の愛媛県松山市での開催をもって全プログラムを終了しました。2008年3月に、作品を「世界でたったひとつの絵本」に仕上げ、参加いただいた方々にプレゼントしました。

### ● 実施概要 ●

プロジェクトメンバー：コスモ石油、ワンダーアートプロダクション、財団法人 三鷹市芸術文化振興財団・三鷹市美術ギャラリー、国立民族学博物館、北海道立近代美術館、福岡市文化芸術振興財団、仙台市博物館、高松市美術館、広島県立美術館、名古屋ポストン美術館、愛媛県美術館  
プロジェクト開始時期：2005年10月  
開催場所：コスモ石油の事業所所在地  
開催日：2006年3月・東京、5月・大阪、10月・札幌、福岡、2007年3月・仙台、5月・高松、6月・広島、7月・名古屋、8月・松山  
ナビゲーター：MAYA MAXX  
参加者：小学1～4年生の児童とその父親（東京：21組、大阪：19組、札幌：16組、福岡：15組、仙台：27組、高松：25組、広島：22組、名古屋：17組、松山：31組）コスモ石油のボランティア延べ33名



### 参加したお父さんたちの声

- 子どものころに自分なりに一生懸命絵を描いていたことを思い出しました。
- 一緒に絵を描くことは照れましたが子どもと二人で長い時間を過ごせたことがとてもよかったです。
- 一生懸命に話を聞いて絵を描こうとする子どもの姿を見ることができてよかったです。
- 絵と一緒に描き上げる作業の中に、子どもとの楽しい会話があることを発見しました。
- 子どもとこんなにたくさん一緒に絵を描く機会が今までなかったので、大変有意義な一日になりました。



社員ボランティアも、制作をお手伝いしました



制作した人形は約1ヵ月間、病院に展示されます

## 2007~ Happy Doll Project

入院している患者さんに心温まる時間を！  
病院のスタッフ、NPO、社員ボランティアが患者さんと一緒に人形づくりを行っています。

Gift of a heart-warming time to hospitalized patients!  
The hospital and NPO staff and Cosmo Oil employee volunteers help patients make dolls.

この活動は、クリスマスカード・プロジェクト(9ページ)が社内に浸透し、発展したプロジェクトです。カードを受け取ってくださる病院と患者さんを対象に、コスモ石油の事業所所在地を中心とした全国6都市で展開します。2007年度は、福岡市立子ども病院(福岡県・福岡市)、大阪赤十字病院(大阪府・大阪市)、順天堂大学医学部付属順天堂医院(東京都・文京区)、金沢医科大学病院(石川県・河北郡)、福島県立医科大学附属病院(福島県・福島市)、仙台赤十字病院(宮城県・仙台市)の6病院で実施しました。参加対象は、病院によってさまざまです。小児ガンや重い心臓疾患の子どもたちが病院併設の学校で先生と参加したり、脳疾患の患者さんのリハビリにも役立てられています。

### ● 実施概要 ●

プロジェクトメンバー：コスモ石油、ワンダーアートプロダクション、各病院関係者  
プロジェクト開始時期：2006年12月  
開催場所：コスモ石油の事業所所在地を中心とした6都市  
開催日：2007年10月・福岡、11月・大阪、東京、2008年1月・石川、2月・福島、3月・宮城  
参加者：入院中の患者さんやその家族、病院関係者

## 参加した患者さんやその家族の方の声

- 色々、ぬったり、きったりしてとてもたのしかったです。またやりたいです。
- 楽しくて、楽しくて時間が足りませんでした。この企画にたくさんの方が参加され、幸せの輪が広がることを祈っています。
- いろいろな布があって、どれで作るか迷いました。
- 手取り足取りボランティアの方に助けていただききりました。時間がたつのがわかりませんでした。
- いろんなアイデアがうかんで楽しかった。
- 皆さんと作業することで嬉しい気持ちになりました。



## マイク・デル・フェロー・トリオ チャリティ・ジャズ・コンサート Mike Del Ferro trio Jazz charity concert

NPOファミリーハウスとNPOグローヴィル、魚藍寺、コスモ石油のコラボレーションで、チャリティ・ジャズコンサートを開催しました。

NPO Family House, NPO Glovill, Gyoran-ji Temple and Cosmo Oil collaborated to jointly hold a jazz charity concert in Tokyo.

このコンサートは、「パパとキッズのアートプログラム(11ページ)」でネットワークが広がったNPOファミリーハウスと、2004年から活動を協賛していたNPOグローヴィルとのネットワークがもとになって開催されました。NPOファミリーハウスは、難病で長期入院を余儀なくされる子どもたちの家族が滞在するための施設をボランティアで運営する組織で、今回の寄付支援先となりました。コンサートを主催したグローヴィルは先駆的音楽の普及と教育をめざし活動しているNPO

で、海外から来日するアーティストから、社会的意義のある演奏機会を持ちたいとの要望を寄せられていました。さらに、コンサート会場は、自らもファミリーハウスを提供されている東京都港区・魚藍寺(ファミリーハウス おさかなの家)の山田智之ご住職のご好意によりご提供いただき、魚藍寺本堂での開催となりました。コスモ石油は、コンサートの開催費用を負担するとともに、社員ボランティアが、会場設営の準備や来場者の案内など、当日の運営をサポートしました。

コンサートには、定員を上回る105名の来場者にお越しいただき、大人1,000円、高校・大学生500円の入場料合わせて85,500円をNPOファミリーハウスへ寄付しました。

### ● 実施概要 ●

プロジェクトメンバー：コスモ石油、NPOグローヴィル、NPOファミリーハウス  
プロジェクト開始時期：2007年7月  
開催場所：魚藍寺(ファミリーハウス おさかなの家)  
開催日：2007年9月29日  
アーティスト：マイク・デル・フェロー・トリオ



お寺の独特な雰囲気の中で、ジャズ・コンサートがスタート



社員ボランティアも、受付などの運営をサポートしました

### プロジェクトメンバーの声

寄付だけでなく、理解を寄せていただいていることに感謝します。

NPOファミリーハウス事務局長  
植田洋子 様

ファミリーハウスは、小児がんなどの難病で、東京の専門病院に長期入院の必要のある子どもや家族が滞在するための施設です。ファミリーハウスが設立された18年前は、まだ骨髄バンクもなく、小児がんの治療率は20%程度でしたが、医療の進歩などで80%程度は治療できるよう

になりました。しかし、現在でも亡くなる方がいらっしゃることは事実です。ファミリーハウスは、企業やボランティアの支援を受けながら、篤志家による運営されています。お金を寄付する人もいれば、活動に参加する人もいて、それぞれの立場でファミリーハウスを支えてくれ

ています。誰にも家族があり、死に直面する気持ちへの共感



がこつとした施設を支えているのだと思います。コスモ石油からは、「パパとキッズのアートプログラム」の参加費や、「チャリティ・ジャズ・コンサート」の入場料を寄付いただき、絵本の購入などに充てさせていただきます。私たちの活動を尊重していただき、理解を寄せてい

ただいている点に感謝します。こういう活動は、大声で、これが正しいと言ったとたんに変質してしまうものがあつたので、手間ひまをかけて少しいい気持ちをつなぐことを大切にしています。今後も、お互いに無理のない範囲で協働させていただきます。と思っています。





## 環境メッセージの発信

Sending Out an Environmental Message

環境をテーマにしたイベントを開催したり、ラジオ、ホームページ、出版物などで情報を発信することによって、環境について考え、行動する機会を拡げています。

Cosmo Oil holds events under the theme of the environment and provides relevant information via radio, the website and publications to offer opportunities for people to consider and act toward environmental protection.

## コスモ アースコンシャス アクト



全国FMラジオ局とのパートナーシップで、環境保全の仲間を増やしています。

Cosmo Oil forms partnerships with national FM radio stations to invite those sympathetic toward environmental preservation to join.

コスモ石油とTOKYO FMをはじめとするJFN(全国FM放送協議会)加盟38局がパートナーシップを組んで、「アースコンシャス～地球を愛し、感じるこころ～」をテーマに展開している活動です。一人ひとりが地球のためにできることを考え、行動を起こすことを目的に、「アースデー・コンサート」や「クリーン・キャンペーン」など、様々な活動を実施しています。

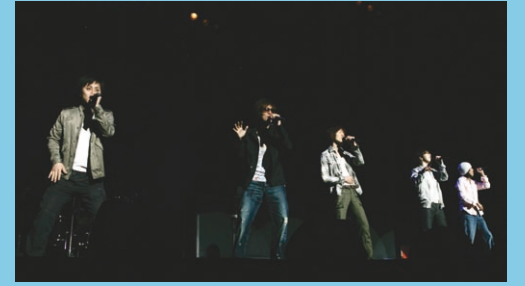
## クリーン・キャンペーン Clean Campaign

全国の山、川、海、湖、公園を舞台に、自然を楽しみながら清掃を行う「クリーン・キャンペーン」を展開。これまでの7年間に281カ所で開催し、参加人数は延べ10万人を超えました。また8月18～19日には、「コスモ アースコンシャス アクト クリーン・キャンペーン in Mt. FUJI」を開催し、富士山の清掃活動とエコトレッキングを行いました。



## アースデー・コンサート Earth Day Concert

音楽を通じて、地球環境への熱いメッセージを伝えるコンサートを、毎年4月22日の「世界アースデー」に開催。2007年はRAG FAIRさん、m-floさん、加藤ミリヤさん、minkさん、大塚愛さんを迎え、未来を担う若い世代に向けて「Message to the Blue Planet～青い地球の未来のために今、できること～」を発信しました。



## ラジオ番組 「ずっと地球で暮らそう。」

“Living with Our Planet” Radio Program

毎朝JFN各局のレポーターが、日本各地から「旬」な環境の話題を生中継。JFN38局ネットで、毎週月曜～金曜(午前6:40～6:45)にオンエアしています。また、定時ラジオ放送だけでなく、好きな時間に番組を聴けるPC(パソコン)とポッドキャストによる配信も行っています。



QRコードで、番組をご視聴いただけます。機種によって視聴できない場合があります。2007年11月16日(金)オンエア分 放送局:FM長崎 レポーター:香月誠司

## 野口 健 講演会 Ken Noguchi Lectures

ヒマラヤや富士山の清掃活動をはじめ、稀少自然保護、環境教育などで活躍されている、アルピニスト野口健さんの講演会を全国で開催。野口さんの波乱万丈な生い立ちからエベレスト登頂までのエピソードを交えながら、環境保全の重要性についてアピールしています。



QRコードで、講演をご視聴いただけます(約4分)。機種によって視聴できない場合があります。



## インターネットムービー&DVD 「野口 健 小笠原環境学校」

Internet movie and DVD entitled “Ken Noguchi's Ogasawara Earth School”

子どもたちが自然の中で学び、成長していくドキュメンタリームービーです。

A documentary movie depicting how children learn from nature and grow.

2004年度に小笠原で開催した環境学校の映像をもとに、ドキュメンタリームービーを制作し、インターネットで配信しています。また、この作品が収録されたDVDを、ホームページ上で無料配布しています。

環境学校は、コスモ石油エコカード基金による活動(P17～19)の一環として実施しました。



<http://cosmo-oil2.netcinema.tv/>

## 環境文化誌 「TERRE」 Environmental Culture Magazine “TERRE”

人の生き方と環境について、多角的に掘り下げる環境広報誌です。

An environment-specialty PR magazine reports stories about the ways people live and the environment from various perspectives.

TERRE(テル)とは、フランス語で「大地」「地球」の意味。「人を通して環境を考え、環境を通して人を見つめる」というコンセプトのもと、過去の人や現代の人の偉大な生き方や考え方を、「環境」という切り口で解きほぐし、多角的に深く掘り下げています。

ご希望の方に無料でお送りしています。





# コスモ石油エコカード基金による活動

Activities through the Cosmo Oil Eco Card Fund

お客様とコスモ石油が、一緒になって進めている活動です。「ずっと地球で暮らそう。」をスローガンに、地球温暖化防止と、次世代の環境教育をテーマに支援活動を展開しています。

Activities which Cosmo Oil and its customers work together to promote. With the slogan of "Living with Our Planet," we are conducting activities to support the two initiatives of global warming prevention and environmental education for children.

## お客様と一緒に、環境保全活動を支援する仕組みを構築

コスモ石油の使命は、石油などのエネルギーを社会に安定供給することです。しかし、ガソリンなどをつくる時に、またお客様の使用時に、環境に大きな負荷をかけていることも事実です。そこで、お客様と一緒に環境保全に取り組むとはできないだろうかと考え、「コスモ石油エコカード基金」を設立。コスモ石油のクレジ

ットカード(コスモ・ザ・カード)「エコ」、コスモ・ザ・カード「エコ」会員のお客様からお預かりした寄付金に、コスモ石油グループの売上の一部を加え、NGO/NPO、政府や地域社会の方々の協力を得て、「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトを展開しています。2007年12月、会員数は86,500名に達しています。



### 「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクト 1

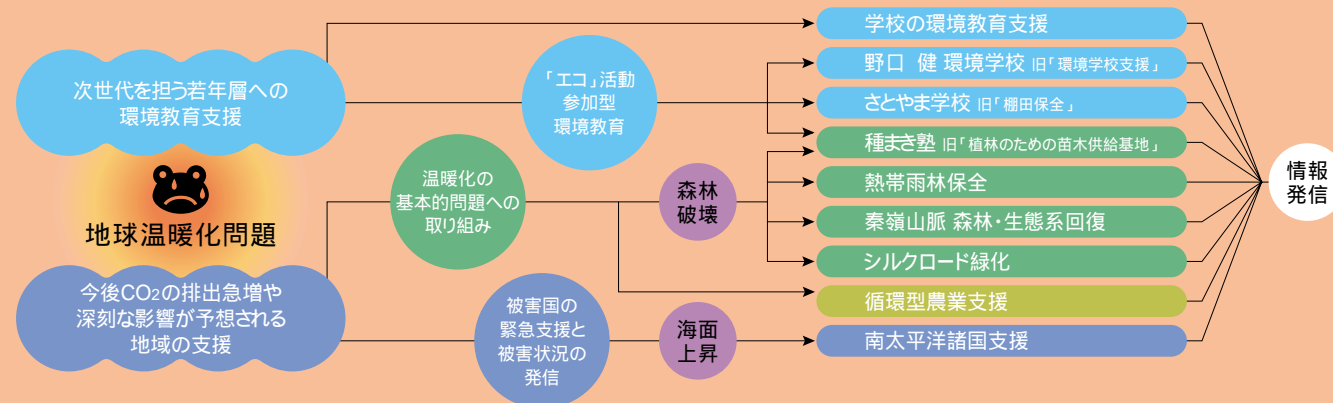
今後CO2の排出急増や深刻な影響が予想される地域の支援

石油と関わりが深い「地球温暖化」をテーマに、今後CO2の排出急増や深刻な影響が予想される途上国などの支援を行っています。途上国の環境問題は、食料不足が引き起こす貧困問題や、人口増加などと密接な関係があります。私たちは、現地の状況に詳しいプロジェクトパートナーや、現地の人たちと何度も話し合い、プロジェクトをつくりあげています。

### 「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクト 2

次世代を担う若年層への環境教育支援

国内では、次世代を担う子どもたちの環境教育支援に力を入れています。環境教育プロジェクトの提供や、学校での環境教育の普及に向けた支援活動を行っています。また、多くの方に環境について考えていただけるよう、プロジェクトの活動内容をWebなどで情報発信しています。



「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトの詳細は、[www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/eco/index.html](http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/eco/index.html)



## 種まき塾 (旧「植林のための苗木供給基地プロジェクト」)

Seed Planting School

(formerly Supply Seedlings/Young Plants for Forestation)

[活動地域] 北海道 [プロジェクトパートナー] LLPふらの種まき塾

「ココロと大地にタネを蒔く」をスローガンに、北海道の富良野で、森林生態系の回復と、環境教育に取り組んでいます。

"The seed is sown to Kokoro and the earth" works in the slogan and it works on the recovery and the environmental education of the forest ecosystem in Furano, Hokkaido.

山からタネや実生を採取し、これを苗床で育て、地域で植林する方々に提供しています。これまでに、1haの苗畑を造成し、エゾアカマツ13,200本、ハルニエ9,600本など、合計33,650本の苗木を育成し、5,000本を植林用に提供しました。また、苗木育成や植林活動を通じて、五感で「自然」を感じ、人と自然の共生について考える環境教育プログラムを実施。2007年9月7～9日に、エコカード会員やその家族を対象に行ったエコツアーには、11歳の小学生から70歳までの幅広い年齢の方々20名が参加し、苗木づくりのためのタネ蒔きや植林などを体験しました。コスモ石油からも2名のボランティアが参加し、活動をサポートしました。



富良野エコツアー 種まき塾の詳細(環境特派員レポート)は、<http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/eco/specialreport.html>

社員ボランティアの声

もっと多くの社員が活動に参加することで、「環境のコスモ」が社内にも浸透していくと思います。

金田祐輔

富良野エコツアー種まき塾では、小学生からお年寄りまで、さまざまな立場の方が環境というテーマについて意見交換しているのを見て、良いなあと思いました。活動に参加することで、いろいろな意味でエネルギーをもらうことができます。大学の学部が環境系だったこ



ともあり、環境報告書などに触れる機会も多く、学生時代からコスモ石油に興味を持っていました。エコカード基金による活動など、ただ寄付をするのではなく、エンドユーザーのお客様と、会社や社員が一緒になって社会貢献活動に取り組んでいる点を評価していました。な

せなら今、企業はまず環境・社会で認められ、そして経済でも選ばれるというケースが増えていくからです。「環境のコスモ」は会社として社会にコミットしていることですが、実際に世間には浸透していません。しかし、社内への浸透はまだまだだと思えます。活動に参加することで、

社会から会社が見られているかを、肌で知ることが出来ます。社会から信頼されていることを知れば、それが仕事の自信にもつながるのではないのでしょうか。社員がもっと活動に参加し、良い連鎖を起こすことで、もっと自慢できる、良い会社になっていくのではないかと思います。

## 「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクト 1 “Living With Our Planet” Projects-1

今後CO<sub>2</sub>の排出急増や深刻な影響が予想される地域の支援

Support for regions where a sharp rise in CO<sub>2</sub> emissions is anticipated to result in severe damage

**2001**  
熱帯雨林保全  
プロジェクト  
Tropical Rainforest  
Conservation

【活動地域】バブニューギニア 【プロジェクトパートナー】財団法人オイスカ、ソロモン諸島 / NPO法人APSD

CO<sub>2</sub>の吸収源である熱帯雨林を保全するため、焼畑農業から、持続可能な循環型有機農業への移行・普及を支援しています。



**2002**  
シルクロード緑化  
プロジェクト  
Silk Road Afforestation

【活動地域】中国 【プロジェクトパートナー】NPO法人2050

砂漠化の進行防止を目指して、地域住民や地元政府とともに、シルクロードの黄土オウド高原の植林を推進しています。



**2005**  
秦嶺山脈森林・生態系回復  
プロジェクト  
Ecological Recovery  
Project of Forest

【活動地域】中国 【プロジェクトパートナー】西北大学

森林を分断する林道跡地に植林し、絶滅危惧種キンシコウなど、野生動物の生息環境改善に取り組んでいます。



**2002**  
循環型農業支援  
プロジェクト  
Recycling-oriented  
Farming Support

【活動地域】フィリピン 【プロジェクトパートナー】NPO法人2050

キャッサバの葉を再利用する循環型農業を軸に、地域の持続的な発展を支援しています。



**2004**  
南太平洋諸国支援  
プロジェクト  
South Pacific  
Countries Support

【活動地域】ツバル共和国 【プロジェクトパートナー】NPO法人APSD、ISME、ツバル国 / NPO法人Tuvalu Overview

温暖化が原因といわれる海面上昇で、井戸水の海水化や海岸線の浸食などの被害に直面する島嶼（とうしょ）国を支援しています。



## 「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクト 2 “Living With Our Planet” Projects-2

次世代を担う若年層への環境教育支援 Support for environmental education for children

**2002**  
学校の環境教育支援  
プロジェクト  
Environmental Education Support at School

【活動地域】北海道、千葉、東京、神奈川、三重、広島、鹿児島 【プロジェクトパートナー】社団法人日本環境教育フォーラム

総合的な学習の時間に環境教育プログラムを提供するなど、学校での環境教育を支援しています。



**2003**  
野口 健 環境学校  
(旧「環境学校支援プロジェクト」)  
Ken Noguchi Environmental School  
(formerly Environmental Schools Support)

【活動地域】富士山、佐渡、小笠原 【プロジェクトパートナー】NPO法人セブンサミツ持続社会機構

環境保全に向けて自行動し、情報発信できる子どもたち「環境メッセンジャー」の育成をめざしています。



**2002**  
さとやま学校 (旧「棚田保全」)  
Satoyama (Community Forests)  
Preservation School  
(formerly Terraced Paddy Field Preservation)

【活動地域】長野県 【プロジェクトパートナー】NPO法人APSD

耕作が放棄された棚田や、里山などを舞台に、環境保活動や体験学習プログラムの開催、出張授業など、幅広い環境教育に取り組んでいます。



**2005**  
参加型総合学習・  
環境教育サイトEEkids  
“EEkids” participatory, comprehensive  
learning and environmental education website

【プロジェクトパートナー】社団法人日本環境教育フォーラム (協力) 環境goo

環境gooの中に、参加型の環境教育サイト「EEkids」を立ち上げました。ブログを使って学校やグループの活動の発表が行えます。  
<http://eco.goo.ne.jp/education/eekids/>



## 芸術・文化活動支援

Support for artistic and cultural activities

心豊かな文化的社会づくりに向けて、芸術・文化活動を支援しています。  
Support artistic and cultural activities to build a considerate and cultural society.

**2005**

### ～美術館・博物館へ行こう～ A Day in the Museum 協賛

芸術・文化に触れる機会を増やしていただくために、NPO美術ファンクラブが実施しているプログラムに協賛しています。2008年1月2日、東京国立博物館、東京国立近代美術館、ポーラ美術館の入場を無料としました。



**2006**

### 大阪ヨーロッパ映画祭 ～キッズフィルム特集～ 協賛

ヨーロッパの子どもたちが制作した映像作品を、日本の子どもたちが楽しむ機会を提供することで、子どもたちの自主性と創造力を育むことを目的とした活動です。NPO大阪ヨーロッパ映画祭実行委員会が主催する活動に、健全な次世代育成支援の一助として協賛しています。



**2007**

### ミュージシャンと音楽であそぼう！ ～ニューヨークからの贈りもの～ 協賛

NPOくらしに音楽プロジェクトが主催する活動に協賛しました。2007年11月15～17日、ニューヨーク・フィルのティーチング・アーティストによるワークショップが開催され、大勢の子どもたちや音楽家との交流を果たしました。



**2007**

### 新国立劇場 シリーズ協賛

2007年10月より、新国立劇場におけるバレエ公演のシリーズ協賛を開始しました。年間を通じた支援活動に加え、次世代育成と地域貢献を目的に、当社事業所所在地を中心とする全国の中学生(修学旅行生)を対象とした単独公演「コスモ石油 中学生のためのバレエ～白鳥の湖～」を2008年6月に開催します。



### 緊急時支援

#### 能登半島地震への 社員募金ならびに 寄付金拠出

2007年3月25日に発生した能登半島地震に際して、食料や飲料水などの支援物資を送ったほか、役員・社員からの募金に、会社から同額をマッチングし、合計5,205,676円を、社会福祉法人中央共同募金会へ寄付しました。

#### 新潟県 中越沖地震への 社員募金ならびに 寄付金拠出

2007年7月16日に発生した新潟県中越沖地震に際して、燃料や飲料水などの支援物資を送ったほか、役員・社員からの募金に、会社から同額をマッチングし、合計5,853,630円を、社会福祉法人中央共同募金会へ寄付しました。

### その他の活動(随時)

- 自然の家オープンデー協賛 献血活動
- 使用済み切手、プリペイドカードの回収とNPOへの寄付
- 中古CD、ゲームソフトの回収とNPOへの寄付
- 外国コイン、紙幣の回収とNPOへの寄付
- 書き損じハガキの回収とNPOへの寄付
- 福祉を目的とした各種バザーへの献品協力



いつの間にか作業に夢中になり、予定よりも広い範囲の下草刈りができました



## 製油所の活動 Refinery Activities

地域社会への貢献活動を通じて、社員、その家族、そして地域の方々のコミュニケーションが広がり始めています。

Activities to contribute to the growth of local communities are broadening the range of communication between Cosmo Oil employees and their families, and local residents.

2007年11月23日、千葉製油所は「鬼泪山(きなだやま)保全活用プロジェクト」を実施。コスモ石油千葉製油所や本社の社員、その家族など約70名が参加し、近隣の里山・鬼泪山で、下草刈りなどを体験した後、バーベキューを楽しみ、親睦を図りました。

製油所は従業員が多く、その多くは地域の住人でもあります。今回の活動は、従業員同士のコミュニケーションを図る良い機会になっただけでなく、従業員やその家族を通じて、地域の調和と共生を促進する機会にもなりました。

### ● 活動概要 ●

プロジェクトメンバー：コスモ石油、NPO法人千葉自然学校  
プロジェクト開始時期：随時  
開催場所：千葉県県有林 鬼泪山(千葉県富津市)  
開催日：2007年11月23日  
参加者：コスモ石油グループ社員ボランティア 約70名

### プロジェクトリーダーの声

「こういう活動って良い!!」  
という実感。  
「誇りと自信」を持って  
地域社会に  
貢献していきます。

千葉製油所副所長 後藤浩二

業務以外で社員同士が活発にコミュニケーションできる場を提供し、風通しの良い風土が醸成されることが製油所運営に重要だと感じています。そこで、社員の地域貢献を通じて、地域とのコミュニケーションを図り、自らの気づきを促し、コスモ石油千葉製油所の社

員としての誇りと自信を高めるきっかけとするため、本社やNPOと相談しながらプログラムを企画しました。一方で、千葉製油所内でライン長や社員に「コスモ石油のポジションや活動の目的・内容について説明し、参加を募りました。情報は社員からその家族へ、そして地

域の方々へと広がり、また行政にPRいただいたこともあり、当日の活動の様子は新聞記事にも取りあげられました。私自身、こういう活動って良い」と実感しましたし、参加した社員の中にも、上司に誘われて参加したが活動を体感して良かったとの声もあり、企業



も行政も、地域社会も、それぞれの立場で、地域全体のあるべき姿を共有し、その実現に向けて気持ちを共有することの大切さを学びました。今後も、コスモ石油の社員として誇りと自信を持って、地域社会のリーダーシップを担っていくよう、継続して活動を展開していきます。

## コスモ石油の 社会貢献活動について、 識者の方から ご意見をいただきました。

社団法人 日本フィランソロピー協会  
理事長 高橋 陽子 様

先日、木村社長や社員の皆さんと対談させていただいた時、「コスモわくわく探検隊」に参加した社員がされていた話が印象的でした。彼女は、3つ目のことに感謝すると言いました。1つは、こういう活動を企画して、社員に参加させてくれる会社に感謝。2つ目は、活動に快く参加させてくれる所属長さんに感謝。3つ目は、平日に行く訳だから、同僚の方に協力や迷惑をかけることもあるけれど、でも行かせてくれる同僚に感謝。だから、仕事で頑張らなくてはいけない時に、頑張れるのです、と。素直でまっすぐな思いが伝わって胸を打ちました。同時に、社会貢献活動が仕事のモチベーション向上につながっていることや、社会貢献活動に対する企業風土が醸成されていることを感じました。子ども・環境・社会というテーマを、関連づけていること、NPOとの連携を心がけていること、しかも社員の参加を促進するしかけを作っていることなどが広がりのある活動につながっているポイントではないでしょうか？ 企業だけでなく、多様な人たちとの関わりの中でアイデアを出しながら、触発しあってつくことで、参加者がワクワクする活動ができるようになります。コスモ石油の活動には、面白さがあります。それは時代の流れを見てニーズを掴んでいるからです。お父さんと一緒に活動にしてもそうですね。参加した人がワクワクする、そして社員がワクワクするというものだから、活動が広がって輪が大きくなっていくのだと思います。

### コスモ石油の 今後の活動に 期待する点

社会貢献活動は、社会から必要とされる時に、必要とされることを実行しないと意味がありません。本当のニーズを拾っていない、見逃しているということが一番怖いことなのです。最初にするのは、ニーズを掘り起こすということです。たとえば、エイズ、ホームレス、家庭内暴力、性教育など、企業が取り組みにくい活動のようですが、本気で取り組むことで社員のチームワークも強まり結果的にブランド構築につながります。現在、コスモ石油で行っている「ユース・フィランソロピー」なども、「クリーンキャンペーン」のような分かりやすさはないようですが、次世代を担う若者の育成は、世の中から強く求められていること

## 社員や顧客はよい社会をつくるためのパートナー。パートナーとともに社会から求められる活動を実行しましょう。

です。アートの次は、お金をどう使うかを教育するプログラムがあっても良いと思います。子ども向けの社会貢献プログラムや絵本をつくるのも良いでしょう。現在の日本では、個人主義という名の下に、私生活主義が広がり、自分たちの暮らしさえ良ければ良いと考える人が増えているので、なかなか寄付が広がりません。学校でお金のことに触れたくないのは、稼ごうのことは言うからです。お金を使って、どう社会に活かしていくかを考えるプログラムは、もちろん学校でも使えますし、学校の先生にとっても大事なことだと思います。実際の、御社の、「コスモ石油エコカード基金」はお客様のカード利用による寄付から成り立つ貴重な活動です。こうした文化を顕在化させ、寄付文化の輪を拡げていただきたいものです。病院へのクリスマスカード・プレゼントでも、活動を通じて、子どもたちが、自分が誰かの役に立つということを体験することが子ども自身の力と希望につながるのです。社員も顧客も子どもも、よい社会を創っていくためのパートナーです。そのため、のきかけや仕組みを創ることが企業の社会貢献に求められています。コスモ石油の社会貢献はそのしかけがいっぱい詰まっています。ワクワクをどんどん作って社会も会社も元気にしていきましょう。

### コスモ石油の 社会貢献活動 について 評価する点



社団法人 日本フィランソロピー協会  
理事長 高橋 陽子

岡山県生まれ。73年津田塾大学学芸学部国際関係学科卒業。高校教師を経て、84年上智大学カウンセリング研究所専門カウンセラー養成課程修了、専門カウンセラーの認定を受ける。85年～91年関東学院中学・高校心理カウンセラーとして生徒、教師、父母のカウンセリングに従事。91年より日本フィランソロピー協会。常務理事・事務局長を経て01年より理事長。事業として、IT活用の音訳事業「声の花束」を運営。92年より月刊「フィランソロピー」編集長。著書に「フィランソロピー入門(海南書房)」「60歳からのいきいきボランティア入門(日本加除出版)」



2008年3月発行

 **コスモ石油株式会社**

〒105-8528 東京都港区芝浦一丁目1番1号 東芝ビル  
TEL.03-3798-3211(代表) <http://www.cosmo-oil.co.jp/>

